私のセイSS（非公式二次小説）

甘いクチビル

紬土セイ × ユーザー

発行
2018.06.26
佐藤こおり

「ああ、ご帰宅ですか？」

ああ、ご帰宅ですか？ ユーザーがコ『ンビニ』から帰ってきたのを見て、セイは『ぱぁっ』と顔を輝かせて、ユーザーの腕にすがりつく。

『ユーザーさま、お疲れ様です！ 今、お茶を入れますね！』

セイは、ユーザーの荷物を受け取ろうとするが、ユーザーは『大丈夫だ』と断る。

『でも、ユーザーさまの荷物を持つのは、セイの役目ですから！』

セイは、ユーザーの荷物を抱えたまま、ユーザーの顔を覗き込む。

『ユーザーさま、顔色が悪いです。お疲れですか？』

セイは、ユーザーの額に手を当てようとするが、ユーザーは『大丈夫だ』と言って、セイの手を優しく押し戻す。

『……ユーザーさま、セイは、ユーザーさまのお役に立てるだけで、幸せなんです』

セイは、ユーザーの目を見つめて、真剣な表情で言う。

『ユーザーさまが、セイを拾ってくださって、毎日、ご飯を作ってくださって、お風呂を沸かしてくださって、セイは、ユーザーさまのお役に立てるだけで、幸せなんです』

セイは、ユーザーの胸に顔を埋めて、小さな声で呟く。

『……ユーザーさま